

展望なき「少数与党」内閣 —それでも石破政権は続くのか—

時事通信社解説委員

やま
山田 恵
すけ
資

- *踏みとどまった戒厳令の韓国
- *混乱も覚悟の民主主義制度
- *スピーチでは完璧主義者
- *安倍と菅で違った石破評価
- *派閥解消が石破氏首相を生む
- *本当は11月選挙を志向
- *退陣もありうると覚悟していた？
- *「企業・団体献金」野党の本音
- *三者を取り持ちたい前原氏
- *石破政権は隠れ岸田政権



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、時事通信社解説委員の山田恵資さんにお越しいただきました。山田さんは、上智大学を卒業の後、時事通信社に入られまして、政治部長、解説委員長をお務めになって現職ということであります。（1997年から）4年間ワシントン支局にいて、アメリカの状況にも接する機会を持っていらつしやいます。

TBSラジオで『森本毅郎・スタンバイ！』という朝の番組があります。ニュースの解説を主体にした番組で、その番組で12年間、毎週月曜日に朝からニュース解説をなさっています。

今日は日本の政局の話をお願いしていました。が、ここ数日、韓国の政局があまりにもすさまじい動きになって、そちらに目を奪われている方

もいらつしやると思います。今日は日韓関係についても触れていただきたいと思っております。それでは、山田さん、よろしく願います。（拍手）

踏みとどまった戒厳令の韓国

山田 こんにちは。ご紹介いただきました時事通信の山田恵資でございます。こちらでお話しさせていただく機会がこれまでも何度かございましたけれども、私自身、年に何回か他の所で講演をする機会がありますが、ここでお話しするときに最も緊張します。いったいどういうお話をしようかと私なりに考えてはくるのですが、いつもこの上に立ちますと、新しいニュースがどんどん入ってきますので、事前につくつ